

SaaS型 システム監視サービス



「物理環境 / 仮想化環境」問わず、あらゆるシステム環境を可視化する監視サービス。

システム障害時、「どこで」「何が」起こっているのかを一瞬で把握

- 迅速な障害切り分け
- ダウンタイムの短縮
- 担当者の作業負担を軽減

過去レポートに基づく確かな未来予想

- 潜在的な問題を発見
- 問題発生を事前に回避
- システムパフォーマンスの最適化

システムの安定稼働

サービス専用のwebポータルで、「現在」「過去」「未来」のシステム状況を可視化

現在	過去	未来
<p>わかりやすいビジュアルで稼働状況を一目で把握</p> <p>サービス対象のシステムと監視情報をリアルタイムに表現したビジュアルにより、全体のシステム構成を把握しつつ、個々の障害ポイントを一目で確認することができます。</p>	<p>普段との違いを浮彫りにする過去のレポート</p> <p>稼働履歴は全て蓄積されているため「日次」「週時」「月時」といったタームで統計的なレポートをアウトプットできます。普段との違いの明確化や、障害問題発生時の兆候を発見することができます。</p>	<p>パフォーマンスを最適化するリソース予測レポート</p> <p>将来のシステムリソースを天気マークでわかりやすく表示</p> <p>過去のデータに基づいて将来のシステムリソースを予測します。1週間後、1ヶ月後、3ヶ月後、6ヶ月後、1年後におけるリソース使用を「晴れ」「曇り」「雨」のマークで表示することで、システムパフォーマンスと投資コストを最適化できます。</p>

システム担当者を強力にサポート。煩雑な障害切り分けから開放!

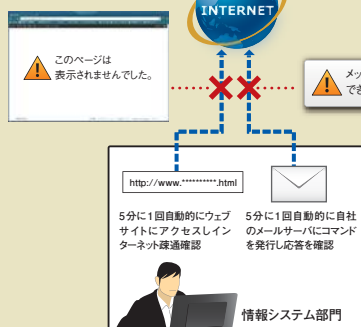
例えば、ユーザからのこんな問い合わせに苦戦していませんか?

インターネットにつながらない...

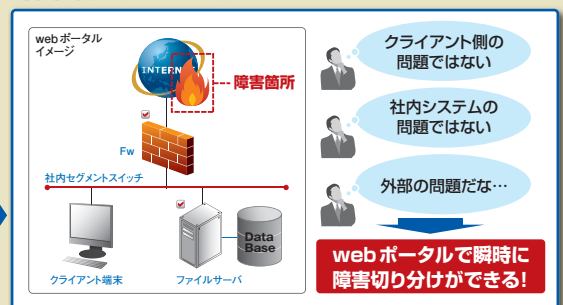
メールが送信できない...

本サービスでは、インターネットの疎通確認や、メールサーバでの稼働確認を自動的に実施する機器が標準装備されています。

【サービスイメージ】



稼働状況を可視化するwebポータル



障害ポイントも明確に可視化するユーザポータル

システムのステータスをリアルタイムに確認できる専用のユーザポータルサイトを、お客様ごとにご用意。用途によって使い分けられる3つのレイヤーを持ち、必要な情報に素早くアクセスできます。



レイヤー 1：モニタリング状況一覧

サービス対象となる機器ごとに監視項目を一覧表示します。障害発生時には、監視項目をステータスに応じた色で表示します。



レイヤー 2：監視項目別状態表示

モニタリング状況一覧等の画面からドリルダウンすることにより、詳細な状態を表示します。状態推移や値比較により状況を把握できます。



レイヤー 3：監視項目別レポート

監視項目ごとのレポートをダウンロード可能。バージョンや機種によらず、すべての機器のレポートを同一フォーマットで管理できます。
※PDFまたはCSVでダウンロード可能

スムーズな障害調査



アラート通知 (E-Mail)

お客様と共通の情報を見ながら障害発生時の連絡において、正常時の状態や関連する情報もあわせてご連絡します。

☑ 障害報告：ノード監視報告

経路検索結果(Hop数/正常時/異)
1 11.1.1.11 11.1.1.11
2 22.2.2.22 22.2.2.22
3 33.3.3.33 33.3.3.33
4 44.4.4.44 44.4.4.44
5 55.5.5.55
6 66.6.6.66

正常時と障害時(今回)との
経路ルートの比較

ハザード機能

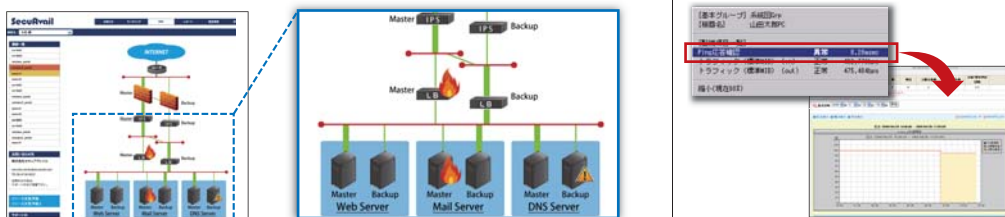
DSVでは、監視対象のシステム構成をweb上に表現し、障害の発生状態(注意/警告)にある機器にハザードマークを表示します。

トラフィックリンク機能

機器の障害がシステム全体のトラフィックに及ぼす影響：迂回経路の状態を、線の太さで示すので一目で判断できます。

ドリルダウン機能

ハザード機能で、「炎」マークが点灯した障害発生機器は、より詳細な障害の箇所をドリルダウン機能から特定することができます。



NetStare for SaaS サービスイメージ

